

A - 2 評価規準

学習指導と評価を4つの観点から工夫し、下記のような取り組みを考え改善した。

< 1 > 美術への関心・意欲・態度

- ・関心が低く意欲がわからない、表現に自信がない生徒への手だてをしっかりと考える。
作品の裏や下側にどンドン気付いたことなど書き残し、自ら課題を考えたり、自分の変容に気づく手だてとする。自己確認ができるようにする。
- ・一人ひとりのよいところを具体的に見つける。
日頃の教師の声かけ、励ましのほか、作品はできるだけ掲示する。全員が鑑賞しあえたり、お互いに表現のよいところを伝え合う機会と習得した満足感が持てるよう心掛ける。

< 2 > 発想や構想の能力

- ・発想が深まるような言葉かけをする。具体的に良いところを伝える。
- ・資料の提示を工夫する。
- ・創意工夫できる柔軟な場の設定や用具を充実させ、気づきや発見を体験させる。
- ・個人のアイデアスケッチの用紙などは束ねて、試行錯誤の記録を残していく。

< 3 > 創造的な技能

- ・基本的な技能を習得する時間を保証し、自信につなげる。
- ・作品はたとえ小さくなくても、生徒が創意工夫し、自分の表現方法を生かしていけるような題材を考え設定する。

< 4 > 鑑賞の能力

- ・自他の作品を鑑賞し語り合えるような活動を指導計画の中に、はっきり位置づけておく。
- ・本物に触れる機会をできるだけ多く持てるように配慮する。